



障害ある子の成長支える

取材を終えて

ダウン症の理解深まる 大沼絢音さん

秋保ヴィレッジには、お茶の足湯がありました。保温効果があり、お茶の香りでもリラックスできるそうです。おりぐぶ上野山では、ダウン症候群について学び、病気や障害ではなく、その人の特徴だということを知ることができました。



おいしい飲み方試そう 川嶋彩恵さん

お茶の井ヶ田が1920年創業と聞いて驚きました。お茶は苦手ですが、おいしい飲み方を教わったので飲んでみようと思います。ダウン症候群は障害ではなく生まれ持った特徴と分かりました。いろんなことを知れて良かったです。



分かったこと広めたい 村岡富季さん

喜久福は、お客さんに長い間喜んでほしいという願いが込められていると知りました。おりぐぶ上野山の伊藤さんが言っていた「障害は特別ではない」という言葉が印象に残りました。取材して分かったことをみんなに広めていきたいです。



仙台市上野山児童館に、障害のある子どもたちが利用する放課後等デイサービス事業所「おりぐぶ上野山」が併設されています。同市上野山小のこども記者、大沼絢音さん(10)と川嶋彩恵さん(10)村岡富季さん(11)の3人が同事業所を訪れ、ハンディのある子どもたちのサポートについて理解を深めました。(1面に関連記事)

放課後等デイサービス、どんなところ？



伊藤さん(右端)取材するこども記者たち

集団が苦手、耳が聞こえにくいなど、さまざまな障害のある34人が同事業所を利用しています。

「しよちようさん」と親しまれる施設長の伊藤良さん(55)は「自分のペースで遊んだり、得意なことに挑戦したりしています。学校でも家でもない、安心して楽しめる第3の居場所です」と言います。

保育士や児童指導員、公認心理士といった資格を持つ福祉のプロ10人がサポートします。伊藤さんは児童発達支援管理責任者の資格を持っているそうです。

「表情やしぐさから気持ちを読み取ったり、絵やカードを使い意思を確認したりします。アンテナを張って、一人一人が出す細かいサインを見逃さないように見守ります」と話します。

「児童館と一緒の建物にあるメリットは何ですか」と質問すると「児童館に来る子どもとも交流できます。互いを理解して助け合う。いっぱい友だちができるっていいですね」と答えました。

「障害は特別なことではありません。誰でも生活しづらいと思うことはある。その部分を少しお手伝いして、自分の力でできたと喜びを感じてもらえたらうれしいです」。伊藤さんは力を込めました。